

もに所見あり、いはゆる取菖蒲根七莖各長二寸漬酒中服之と抄芥記せり世俗はたゞ根節の數に拘らず用ゐ侍れども、一寸九節のもの尤驗あるよし病楚歲時記千目、いへり、一説に、一寸のうちに百ふしある玄やうぶあぢがの玄やうぶ萬病をいやすと問答世諺いへるは、いづれの書に據りしにや、いまだ其出所を詳にせず、舊酒中に浸じ用る菖蒲に、功能多あり少あり、池澤に生するものは泥蒲也、溪澗に生するものは水蒲也、水石間に生じ葉に有劍脊○脊一本者石菖蒲也と本草綱目、群芳譜、見えたるを以て考ふれば、其生ずる所によりて、各名あるなり、此水石間に生ずるもの撰びとりて酒に浸し用べきなり、これ眞の石菖蒲にして、功能枚舉すべからずくはしくは本草に見えたり、玄かるを近世は、池澤溪澗をきらはすして用ゐ侍るは、甚だ無稽なり、必ず水石間に生じ葉劍脊ありて、一寸九節のものを撰びとりて用ゐば功驗あらはるべし、世俗は益に水をたくはへ、石上に植るもの石菖蒲は長さ二尺の餘に及べり、又菖花とて菖蒲の花をも酒に浸し、端午に用る事あり、菖華汎酌堯樽綠なりと、章簡公端午帖子に見えたり、

〔年中恒例記〕五月朔日 同じ御祝日朔之御酒に菖蒲をきざみて入也。

〔日本歲時記〕五月五日 端午

今日端五節中略市中家々中略細刻菖蒲葉入酒中而飲之辟瘟云凡華謂菖蒲者石菖蒲也本朝以水菖蒲爲菖蒲端午用漬酒者非也

〔日本歲時記〕五月五日 端午と云略中

國俗今日粽をくらひ菖蒲酒をすむ略中菖蒲酒をのむ

事、歲時雜記に、端午菖蒲を取て縷のごとくし、或細末して酒にうかべてこれをのめば、陽氣を助け年をのぶといへり、山澗九節の菖蒲よじとなん。

〔月令廣義〕五月初五日菖蒲酒神農書、午日以菖蒲或縷或屑泛酒助陽氣延年、以山澗菖蒲切酒にひなしして是をのむ雄黃を少しよし、一切の邪氣をさくる佳笑談錄、五日菖蒲未酒服亦解酒痛飲不醉。

〔改正月令博物筌〕五月五日菖蒲酒石菖蒲がりくはべてます佳笑談錄、五日菖蒲未酒服亦解酒痛飲不醉。

〔東都歲事記〕五月五日端午御祝儀○中貴賤佳節を祝す家々中略菖蒲酒を飲み、又角黍柏餅を製す。